

(様式1)

平成23年度  
研究助成報告書

提出日 平成24年3月12日

研究の種類

共同研究(含む海外) ・ ○個人研究 ・ 出版助成

研究課題名

空間における人と場の関わりと感覚時間に関する研究

研究代表者及び研究分担者(所属・職名・氏名)

家政学部 建築・デザイン学科 准教授 藤本 麻紀子

研究期間(当該年度期間に何時何処でどんな事をしたか、年間スケジュールを記入)

〈例: 7月25日 共立博物館において〇〇の資料収集〉

4月 1年間の計画作り、研究の方向性を練る

5月 実験方法の決定

6月 実験場所の調査: 地上空間・直線経路4箇所、地下空間・直線経路4箇所、曲り角を含む経路2箇所、  
地下空間・階段の上り下りを2箇所ずつ、計14箇所を実験場所と決定。

7月 実験場所の測定、実験準備

8月17日～24日 景観調査、測定のため、韓国ソウル滞在

9月12, 13, 14, 15, 16, 20, 21, 22, 26日 実験

10月 データ入力

11月 データ入力

12月 データ解析

1月 データ解析

2月 日本家政学会 発表用データ作成、提出

3月 論文執筆中

(様式2)

研究組織 [氏名, 所属, 役割分担]
(共同研究のみ記入)
研究発表 (印刷中も含む) 雑誌及び図書
日本家政学会第64回大会発表予定 (2012年5月11日～13日、大阪市立大学にて開催予定)

## (様式3)

## 研究実績の概要

近年東京では地下鉄が発展し、地下通路を利用して地上の目的地または目的付近まで行くことが可能である。しかし、地下道は地上に比べ単調な景色でつまらなく、地上で同じ目的地に向かうよりも先が長いと感じることがある。地上では街路樹などの植栽が豊かであったり、ビルや店舗などの変化が見られる景観、また自然光や風を感じられると、地下空間を歩行するよりもあつという間に時間が過ぎると感じる。それに比べ、地下空間でいくら進んでも変化の見られない無機質な景観が続いたり、地下ならではの薄暗く冷たさを感じるような場合はまだ着かないのかと時間の経過を遅く感じる。この時間の経過に対する差異に関して、どのような要因が影響するのか疑問を感じる。

また、同様に神保町周辺の調査では、美しい皇居などの景観が広がる反面、高速道路によって景観が破壊されている。大都市の河川の上を這うように建設された高速道路。騒音とともに、景観を悪くしている。

そんな中、韓国ソウル市にある清溪川復興事業を知った。ソウルは近代になって急激に変容しており、その中でソウル中心に流れている清溪川は都市づくりの重要な要素である。清溪川再生による都市空間構成について、視覚的、聴覚的に分析を行い、東京の景観との比較をし、今後の都市空間の景観のあり方について調査した。

まず東京の調査は、地上と地下で場を構成する要因により感じるイメージをアンケートにより調査、また時間の長さ（感覚時間）がどのように異なるか実験を行い研究を進めた。

実験対象場所としては、地上・地下での直線、地下での曲角・階段において、対局する場所、以下14箇所を被験者に馴染みのある神保町駅近郊で選定し実験場所とした。歩く順序による結果の偏りをなくするために2つのルートを考え、半数の被験者ずつ実験ルートを変えて実験を行った。

【地上4箇所】(1)皇居沿い(2)一ツ橋(3)東京パークタワー脇の通り(4)タリーズ前（すべて直線）

【地下6箇所】(5)(6)神保町駅地下通路①（直線・曲り角）(7)(8)神保町駅地下通路②（直線・曲り角）(9)竹橋駅地下通路①（直線）(10)竹橋駅地下通路②（直線）

【地下階段4箇所】(11)(12)神保町駅A8出口（上り・下り）(13)(14)神保町駅A9出口（上り・下り）

1回の実験につき被験者1人を引率した。被験者には地上と地下の実験場所を、定められた経路に沿って歩行してもらい、歩行時にはストップウォッチを持ち自身の感覚で30秒間計ってもらった。実際に計測した時間と自身の感覚での時間（感覚時間）の差異と、実験場所に対するイメージアンケートなどを元に考察を行った。また、温度・湿度・騒音・照度などの物理的要因についても計測し、その結果も考察に用いた。

結果を元に、14箇所の実験場所をクラスター分析によって4グループに分類した。

【グループ1】皇居・東京パークタワー脇（ともに地上・直線）【グループ2】一ツ橋・タリーズ前（ともに地上・直線）【グループ3】神保町駅②（地下直線・曲角）・A9階段（地下階段・上下・曲角あり）【グループ4】神保町駅①（地下直線・曲角）・A8階段（地下階段・上下）・竹橋駅①（地下直線）・竹橋駅②（地下直線）

【グループ1】は地上の自然が多く静かで好ましい空間、【グループ2】は地上の自然が多いがうるさく好ましくない空間、【グループ3】は地下の静かでもうるさくもなく自然を感じられる要素が少ないが好ましい空間、【グループ4】は静かで自然を感じられる要素がなく好ましくない空間、と言える。感覚時間の評価が長い順に並べると1→2→3→4となった。地下のグループ3・4よりも地上のグループ1・2の方が感覚時間が長く、心理的には穏やかに時間の流れを感じていることが分かった。そして地上・地下ともに、親しみやすい・美しい・雰囲気が良い等の「好ましい」因子を感じるほど、また全体を見ると、緑が多い・変化にとんだ等の「自然が多い」因子も高いほど時間を長く感じている。しかし、落ち着きの無い・にぎやかな等の「うるさい」因子では、

地上においてはその因子が低いほど、地下においてはその因子が高いほど感覚時間が長くなるという結果が得られた。このことから地上に比べ視覚的に得られる情報が少ない地下では、聴覚的に得られる情報も多いほど心理的には心地良いと感じているということが分かった。